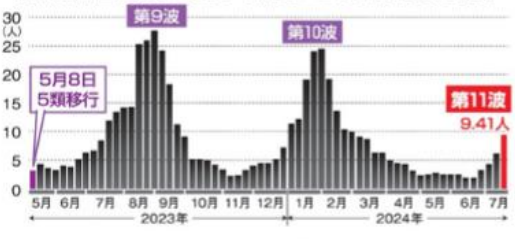
7月25日掲載　民報　25面

新型コロナ脅威再び

県内で新規感染者急増

新型コロナウイルス感染者の増加が県内でも続いている。21日までの1週間に県内82定点医療機関で確認された新規感染者数は772人で1医療機関当たり9・41人となり、前週（8～14日）の6・18人から1・5倍に増加。インフルエンザで流行の注意報が出る基準の10人に迫った。県内の医療機関は急増する患者対応に追われ、感染拡大に危機感を示す。一方、5類移行後の治療薬購入やワクチン接種に要する高額な自己負担が受診や接種控えにつながっているとの指摘もあり、公的支援の充実を求める声が上がる。

県内定点医療機関当たりの新型コロナ感染者数の推移



医療機関 対応追われる

県が24日、直近1週間の感染状況を発表した。保健所別の感染者数は【表】の通り。82定点医療機関のうち、1医療機関当たりの感染者数は相双が17・83人、いわき市が12・08人と浜通りでの感染が目立つ。新型コロナに注意報や警報を発令する国の指標はないが、インフルエンザでは10人が注意報を出す基準となっている。

県内の82定点医療機関の新型コロナウイルス感染者数（24日・県発表）

保健所	15日～21日	8日～14日
福島市	46人（3.83）人	60人（5.00）人
県北	68人（7.56）人	40人（4.44）人
郡山市	119人（9.15）人	73人（5.62）人
県中	81人（9.00）人	35人（3.89）人
県南	66人（9.43）人	49人（7.00）人
会津	123人（12.30）人	66人（6.60）人
南会津	5人（1.67）人	9人（3.00）人
相双	107人（17.83）人	65人（10.83）人
いわき市	157人（12.08）人	110人（8.46）人
県計	772人（9.41）人	507人（6.18）人

（かっこ内は定点当たりの報告数）

5類移行後の感染者数の推移は【グラフ】の通り。昨年は7月中旬に10人を超えて増加傾向が顕著となり、8月末～9月初めに「第9波」で最多となる27・62人を記録した。

「コロナ患者は1カ月前と比べ、明らかに増えている」。いわき市のみちや内科・胃腸科院長の斉藤道也さん（62）は危機感を募らせる。

6月上旬、1日当たりの患者数はゼロや1人程度の日が多かったが、ここ1～2週間は5～10人程度に急増。5類移行後も発熱などの症状がある患者は他の患者との接触を避けるため、駐車場での診察を継続している。斉藤さんは「ウイルスが弱毒化したわけではない」と感染対策の重要性を訴える。

駐車場で発熱患者の診察に当たる春日さん＝福島市・上松川診療所

福島市の上松川診療所でも所長の春日良之さん（70）らが駐車場で発熱患者の診察に当たる。ここ2週間程度で患者が大幅に増え、22～24日に受診した計11人のうち10人が新型コロナと判明した。春日さんは「熱中症と見分けが難しい場合があるが、新型コロナ感染を広げないためにも自己判断せず、医療機関に相談してほしい」と呼びかける。

ワクチン費用 負担軽減求める声

新型コロナの医療費は3月末で公費支援が終了し、現在、薬の通常窓口負担は1万5千円～3万円程度かかる。ワクチン接種は高齢者らが対象の定期接種の場合は自己負担が最大7千円になるよう国が各市町村に費用を助成するが、対象外の人は原則自己負担の任意接種となる。

春日さんは「接種は本人の判断だが、若い人も含めた行政支援で高額な負担を抑えられれば、医療機関側も患者さんに対して接種を勧めやすくなる」と話す。

県民からも負担軽減を求める声が上がる。猪苗代町のサービス業鈴木陽介さん（40）は人混みを避けたり、小まめに手指消毒したりするなどの感染対策を心がけてきた。「重症化しやすい高齢者との同居などで感染に不安を抱く人は多い。幅広い世代に一定の補助があれば接種しやすい」と柔軟な対応を望む。

人がいる場はマスク着用を
福医大の山藤教授

山藤栄一郎教授

福島医大総合内科・臨床感染症学講座の山藤栄一郎教授（44）は「流行時には、公共交通機関など屋内で近くに人がいる場所ではマスクを着けてほしい」と呼びかけている。

―県内の感染状況をどう見るか。

「西日本よりは落ち着いているが、医療従事者や入院患者の感染事例が増えており、県内でも第11波の流行が広がっている」

―今夏は猛暑が予想されている。感染対策のポイントは。

「屋内でのマスク着用が熱中症につながることは基本的にないが、新型コロナ感染で体調が悪化し結果的に熱中症になるケースがある。まずは新型コロナに感染しないことが重要だ。マスクを着けない人が増えると、流行がピークアウト（頭打ち）しにくいとの報告もある」

―ワクチン接種や治療薬購入には高額な自己負担が生じている。

「高齢者はワクチン接種から半年以上たつと、重症化を予防する効果が徐々に落ちてきてしまう。ワクチン接種や治療薬の購入をためらわなくて済むような行政の支援があるとありがたい。高齢者以外の人でも重症化リスクや免疫状態には個人差が大きいため、ワクチン接種に悩んだ場合は、かかりつけ医に相談してほしい」